

病床機能転換計画の進捗状況

2025年3月
医療法人社団稲仁会
旭川脳神経外科循環器内科病院

病床転換計画について（再掲）

医療法人社団利信会 上村産婦人科医院 上村利彦理事長のご協力もあり、上村産婦人科医院を医療法人稲仁会へ事業譲渡したうえ、一般病床を18床旭川脳神経外科循環器内科病院へ移動（①）。

同時に、旭川脳神経外科循環器内科病院の療養病床の20床を一般病床へ転換（②）させ、2025年まで一般38床を回復期としたい（③）。

①実行時

旭川脳神経外科循環器内科病院 一般60床（急性期） 療養60床（回復期48・療養20）
 ※療養18床は返還（合計120床）

上村産婦人科医院 一般1床（急性期）

②実行時

旭川脳神経外科循環器内科病院 一般80床（急性期） 療養40床（回復期40）（合計120床）

上村産婦人科医院 一般1床（急性期）

③2025年まで

旭川脳神経外科循環器内科病院 一般80床（急性期42・回復期38） 療養40床（回復期40）（合計120床）

上村産婦人科医院 一般1床（急性期）

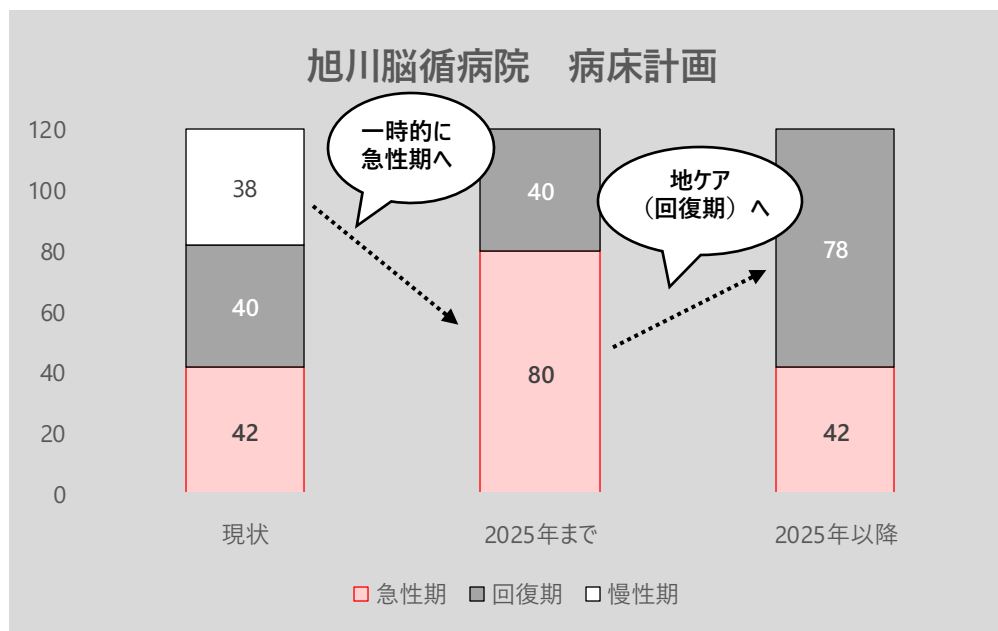
2022/12より、当初の計画通りの病床区分でスタートしております。

	病床基準	病床数	2022/11	2022/12	2023/1	～	2025/4
医療法人社団稲仁会 旭川脳神経外科循環器内科病院	急性期	42	42	80 ●	80		42
	回復期リハ	40	40	40	40		40
	療養	38	38	—	—		—
	地域包括ケア	—	—	—	—		38
医療法人社団利信会 上村産科婦人科医院	急性期	19	19	1	1		1
				医療法人社団稲仁会へ事業譲渡			

旭川脳循環 病床転換計画（再掲）

2022年7月より整形外科チーム（医師5名）の配備が決定。整形外科慢性期及び急性期（外傷等）も一部運用することに決定。それに伴い看護師、コメディカルも充実するため急性期病床の拡充が可能。コロナ、救急受入れの確保も可能となる。3か年計画で在宅医療の体制・現在の回復期機能を拡大を実行し、早期に回復期への転換を図る。

コロナ患者の受入れ及びバックベッド、救急搬送の受入れ枠の確保
整形外科の充実により救急受入れ幅が大きく広がる



在宅（訪問診療＋訪問看護）の整備を行い、一時的に増やした急性期病床をなるべく早くに回復期（地域包括ケア病床）へ転換

時間外救急 外科当番及び回復期（地域包括ケア）への転換について

2022年7月より整形外科チーム（医師5名）の配備が決定。体制を整えていたが、2023年1月より当番を実施。

昨年1年間の救急受け入れ件数は約2,300件に達しており、急性期病床の増床が地域医療に大きく貢献しております。旭川市内の民間病院の中でも救急受け入れ件数は上位となっており、地域の救急医療を支える重要な役割を果たしている。

体制を整えた2023年1月以降、月2回の当番を実施しております。

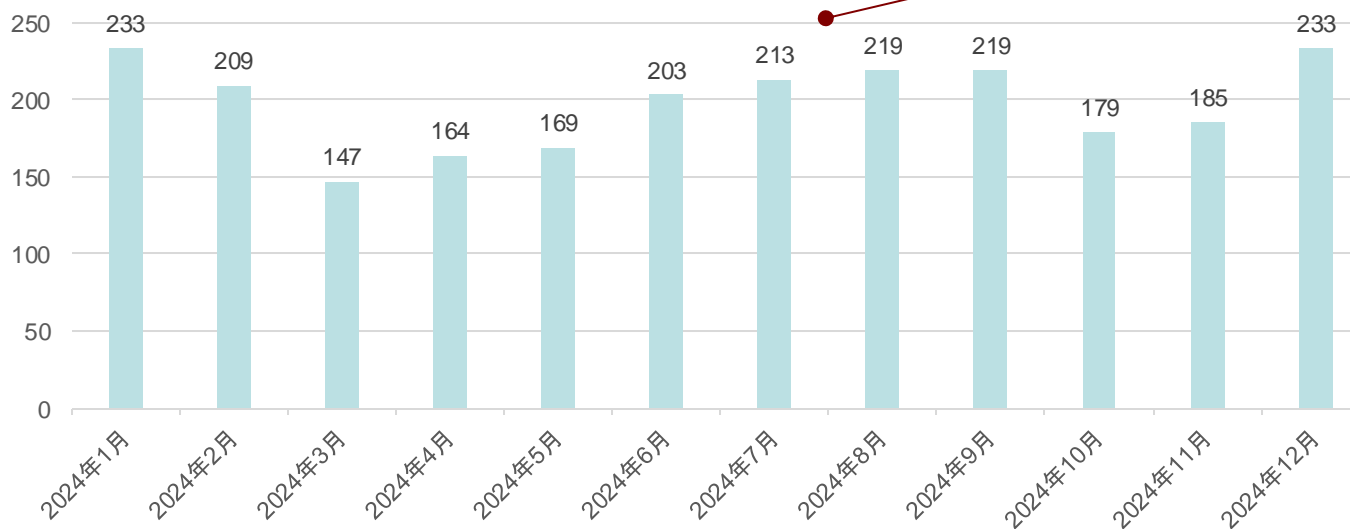
外科当番実施日

2023/1	2023/2	2023/3	2023/4	2023/5	2023/6	2023/7	2023/8	2023/9	2023/10	2023/11	2023/12	2024/1	2024/2
1月7日	2月7日	3月4日	4月2日	5月4日	6月3日	7月5日	8月23日	9月14日	10月12日	11月18日	12月6日	1月6日	2月17日
1月25日	2月18日	3月23日	4月19日	5月25日	6月14日	7月15日	8月30日	9月30日	10月21日	11月30日	12月16日	1月17日	2月28日

2024/3	2024/4	2024/5	2024/6	2024/7	2024/8	2024/9	2024/10	2024/11	2024/12	2025/1	2025/2	2025/3
3月21日	4月6日	5月5日	6月5日	7月10日	8月3日	9月5日	10月10日	11月2日	12月5日	1月9日	2月6日	3月1日
3月30日	4月17日	5月18日	6月15日	7月20日	8月14日	9月21日	10月19日	11月21日	12月21日	1月18日	2月15日	3月12日

救急車受け入れ台数推移

2024年は2,373件の救急車受け入れ。
ウォークイン含めると2,451件となる。



回復期（地域包括ケア）への転換について

2022年7月より整形外科チーム（医師5名）の配備が決定。体制を整え2025年1月に訪問リハビリを開始。訪問の開始は1Q遅れとなった。2025年4月から院内体制の大幅な変更を予定しており、地域包括ケア病床への転換に支障がある状況。

当初スケジュールの進捗状況

旭川脳神経外科循環器内科病院 回復期（地域包括ケア）転換スケジュール

		2022年				2023年				2024年				2025年			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
計画策定	病棟再編協議																
	予算策定																
	人員配置検証																
人員採用	採用計画及び採用施策実行																
	採用																
人員整備	配置転換																
設備関連	病棟設備整備																
	医療機器・什器・備品整理及び移動																
訪問・在宅関連	訪問事業計画策定																
	採用計画及び採用施策実行																
	採用																
	訪問事業所届出稼働																
病棟再編	患者選定																
	ベッドコントロール																
	施設基準実績作り 患者移動																
開始	病床基準届出 一般病棟→地域包括																

2022/9よりコロナ重点医療機関として、現在も1フロア稼働中。準備に遅れが生じていた（前回報告）

また、2025年4月に院内体制の大幅な変更を予定しており、4月での基準取得は困難である。

訪問リハビリの開始2025/1
実際の計画より1Qずれ込んだ。

4月から院内体制の大幅な変更を予定しており、4月時点では病棟の基準を満たすことができず、**4月の地域包括ケア病床の施設基準取得は実質難しい状況となっている。**病棟の巡回回転には半年ほど時間を要する予定。

回復期（地域包括ケア）への転換について

2022年7月より整形外科チーム（医師5名）の配備が決定。体制を整え2025年1月に訪問リハビリを開始。訪問の開始は1Q遅れとなった。2025年4月末から院内体制の大幅な変更を予定しており、回復期への転換に支障がある状況。

回復期機能強化に向けた取り組み

2025年に向け、回復期機能の充実を視野に入れた地域包括ケア体制の強化を進めております。その一環として、2024年1月より訪問リハビリテーションを開始し、地域包括ケア病棟入院基本料の取得に向けた実績構築を行っております。これにより、地域の在宅復帰支援を強化し、急性期後の患者の円滑な受け入れを目指しております。

急性期医療の現状と課題

一方で、昨年1年間の救急受け入れ件数は約2,300件に達しており、急性期病床の増床が地域医療に大きく貢献しております。旭川市内の民間病院の中でも救急受け入れ件数は上位となっており、地域の救急医療を支える重要な役割を果たしております。

しかしながら、急性期病床を回復期へ転換することで、救急患者の受け入れ体制に影響が出る可能性がございます。特に、病棟基準を地域包括ケア病棟へ変更することで院内の運用が変更となり、現行の救急受け入れ基準と合わなくなるケースが生じることが懸念されます。高齢者救急の割合も増加している中で、単純な病棟機能転換ではなく、救急医療と回復期機能のバランスを取ることが必要と思料します。

転換

回復期（地域包括ケア）への転換について

2022年7月より整形外科チーム（医師5名）の配備が決定。体制を整え2025年1月に訪問リハビリを開始。訪問の開始は1Q遅れとなった。
2025年4月末から院内体制の大幅な変更を予定しており、回復期への転換に支障がある状況。

今後の方向性としてご報告したい事項

救急医療機能の維持を前提としながら、回復期機能も適切に担う診療体制を整え、急性期治療後のリハビリテーション支援を強化し、在宅復帰を促進する病棟の活用を進める方針です。

しかしながら、4月から院内体制の大幅な変更を予定しており、現時点で既存病棟の基準を満たすことができず4月での地域包括ケア病床の施設基準取得は実質難しい状況となり、病棟の巡回回転には半年ほど時間を要する予定です。

今後も、地域医療のバランスを考慮しながら、急性期・回復期の両機能を適切に担う病院運営を推進してまいります。病棟基準の変更が救急医療の提供に及ぼす影響については慎重に検討する必要があると認識しております。

今回の会議内にて、急性期・回復期の役割、診療する患者層の定義を改めてご確認させていただきたい意向です。